

男女共同参画推進委員会 (JES We Can) 便り 2019 年度 JES We Can 支部活動の報告

◎：支部代表、○：報告者、(新)：新委員
支部代表以下は五十音順

[北海道支部 第19回北海道支部学術集会]

開催日：2019年10月20日(日)

会場：札幌プリンスホテル国際館パミール

会長：和田 典男(市立札幌病院 糖尿病・内分泌内科)

企画：

① JES We Can 企画セミナー

講演タイトル：「原発性アルドステロン症の診断と治療：病態の性差を踏まえて」

演者：和田 典男(市立札幌病院 糖尿病・内分泌内科)

座長：宮 愛香(北海道大学大学院医学院・医学研究院 免疫・代謝内科学教室)

② 第2回 JES We Can 北海道支部賞受賞講演

受賞者：柴山 惟(北海道大学大学院医学院・
医学研究院 免疫・代謝内科学教室)

座長：滝山 由美(旭川医科大学 内科学講座
病態代謝内科学分野)



(写真) 左から、学会長 和田 典男 先生、

第2回 JES We Can 北海道支部賞 受賞者 柴山 惟 先生、支部長 櫻井 晃洋 先生、報告者。

来年度予定の男女共同参画推進委員会 (JES We Can) 内規改訂に伴い、委員の世代交代をいたします。過去、企画セミナー立案から開催まで、ご高配を賜りました歴代会長、関係各位に、末筆ではございますが、心より感謝申し上げます。

委員氏名：◎○滝山由美、中村明枝、宮 愛香、村下真理

[東北支部 第39回東北支部学術集会]

開催日：2019年10月19日(土)

会場：コラッセふくしま

会長：橋本 重厚先生(福島県立医科大学会津医療センター 糖尿病・内分泌代謝・腎臓内科学講座)

企画：JES We Can 企画

講演タイトル：「Prolactinoma の診断と薬物療法 Update」

～個別症例化した Cabergoline 治療による高率な寛解誘導～

演者：小野 昌美先生(東京クリニック 内分泌代謝科)

座長：桜井 華奈子(仙台医療センター 内分泌代謝内科)

第39回東北支部学術集会 JES We Can 企画では、「プロラクチノーマ」をテーマに掲げ、東京クリニック 内分泌代謝科 小野昌美先生を招聘し、御講演いただきました。プロラクチノーマの寛解誘導に際し、カベルゴリン低用量投与で寛解導入が難しかった症例に対し、高用量投与することで高率な寛解誘導が得られる旨ご紹介いただきました。御講演後には、多数の質問が寄せられ、

プロラクチノーマに対する聴衆の関心の高さがうかがわれました。

委員氏名：◎○桜井華奈子、木下敬子、高橋郁子、羽田幸里香、緑川早苗

【関東甲信越支部 第20回関東甲信越支部学術集会】

開催日：2019年9月13日(金)～14日(土)

会場：政策研究院大学 想海樓ホール他

会長：鈴木 眞理(政策研究院大学 保健管理センター)

企画：JES We Can 企画

講演タイトル：内分泌代謝疾患－臨床から分子病態へ

演者：後藤 伸子(慶應義塾大学 保健管理センター、腎臓・内分泌・代謝内科)

肥満治療における「食べたい」を考える

福中 彩子(群馬大学 生体調節研究所)

亜鉛トランスポーターZIP13の制御に基づくベージュ脂肪細胞の運命決定機構の解明

鈴木 佐和子(千葉大学 内分泌代謝・血液・老年内科学)

両側副腎皮質大結節性過形成の新たな分子病態の解明

座長：方波見 卓行(聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院 代謝・内分泌内科)

黒川 理樹(埼玉医科大学 ゲノム医学研究センター)

2019年度は“内分泌代謝疾患－臨床から分子病態へ”というテーマで上記3名の女性研究者の先生方にご講演をお願いしました。後藤伸子先生は肥満症症例の治療過程における食依存とそれに対する取り組みについて、福中彩子先生は亜鉛シグナルの生活習慣病の病態へのかかわり、特にZIP13によるベージュ脂肪細胞分化の制御機構について、鈴木佐和子先生は両側副腎皮質大結節性過形成(PMAH)に関与するARMC5遺伝子変異と遺伝子異常がPMAH発症をきたす機序を解明する取り組みについて研究成果を発表されました。実は、2015年に開催された第16回関東甲信越支部学術集会(片上秀喜会長)の折に“若手研究者育成のための若手女性医学研究者によるシンポジウム－症例から学ぶ糖尿病代謝内分泌性疾患の分子病態”という企画が組まれたのですが、その際にディスカッサーとして3名の女性研究者のご講演を聴講された鈴木眞理会長が、これらの演者の先生方の研究への取り組みに感銘を受けられ、是非その後の研究成果も含めてお話をさせていただきたいとリクエストなさって実現したのが今回のプログラムでした。それぞれの先生方ご自身の研究テーマをさらに追求して成果をあげておられ、非常に内容の濃いお話を伺うことが出来ました。

今回から関東甲信越支部会で新たにスタートしたJES We Can 優秀演題賞は以下の3名の先生が受賞され、表彰式では初代JES We Can 委員長である高野加寿恵先生(東京女子医科大学名誉教授)から表彰状と副賞が贈呈されました。

林 聖子先生 聖路加国際病院 内分泌代謝科(会長賞とのダブル受賞)

妊娠糖尿病における出産後の耐糖能異常のリスク因子についての検討

竹田 幸代先生 自治医科大学付属病院 内分泌代謝科

当院における免疫チェックポイント阻害剤による内分泌学的有害事象の臨床的特徴について

久保 ゆい先生 聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院 代謝・内分泌内科

二次性MDS併発悪性パラガングリオーマの1例

最後になりましたが長い間私達の活動を牽引して下さり、今年度末に任期満了を迎えられる会長の鈴木眞理先生のご尽力に深謝申し上げます。

委員氏名：◎片井みゆき、井下尚子、岩部美紀、小澤直子、方波見卓行、北中幸子、鈴木眞理、田島敏広、田辺晶代、中島康代、波多野雅子、深見真紀、○福田いずみ、藤田 恵、堀川玲子、山口実菜

[北陸支部 第19回北陸支部学術集会]

開催日：2019年11月9日(土)

会 場：北アルプス文化センター(上市町)

会 長：浦風 雅春(かみいち総合病院)

企 画：女性医師企画コーナー「臨床医のための内分泌症例セミナー」優秀賞受賞講演

表彰式進行：竹下 有美枝(金沢大学附属病院 内分泌代謝内科)

優秀賞授与式：浦風雅春会長から表彰状ならびに賞品(旅行券)

受賞者：吉澤 都先生(黒部市民病院 糖尿病内分泌内科)

受賞演題：「悪性褐色細胞腫の1剖検例」

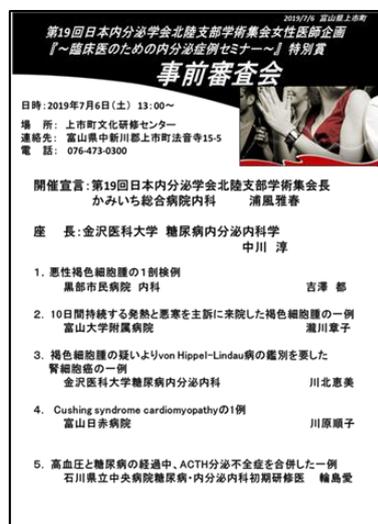
受賞講演 座長：中川 淳(金沢医科大学 内分泌・代謝科)

藤井 寿美枝(石川県立中央病院 糖尿病・内分泌内科)

2019年7月6日、上市町文化研修センターにおいて、北陸支部副支部長・金沢医科大学内分泌・代謝科の中川淳先生の進行かつ指導のもとに、5名の女性医師が内分泌疾患の興味ある症例について、本企画6回目となる事前審査会を行いました。今回は副腎関係の症例が多く、北陸3県から集まった医師たちは茶菓を片手に副腎周辺の内分泌臨床を深掘りすることでブラッシュアップしました。全発表終了後、組織票を回避するため審査医師1人2票を導入した厳正なる審査の結果、黒部市民病院 吉澤都先生の演題「悪性褐色細胞腫の1剖検例」が最優秀賞に選定されました。吉澤先生の発表には、これまでにないほど多くの票が集まりました。7年間という長期にわたり一人の悪性褐色細胞腫の患者さんに寄り添い診療をされた姿に、フロアの多くの先生方が強く心を揺り動かされました。

11月9日の学会当日は優秀賞授与式と受賞講演を行いました。一般演題の口演発表のうち女性医師の発表は4割であり、一般講演5セッションのうちの3セッションの座長に女性専門医が起用されました。女性医師一人一人が内分泌・代謝領域の学問と医療に邁進し、北陸そして全国に向けて活躍されますように、引き続き JES We Can として支援していきたいと考えています。

委員氏名：◎○白田里香、竹下有美枝、中川 淳、朴木久恵



[東海支部 第19回東海支部学術集会]

開催日：2019年11月16日(土)

会場：愛知産業労働センター(ウインクあいち)

会長：有馬 寛(名古屋大学大学院医学系研究科 糖尿病・内分泌科学)

企画：JES We Can Tokai 企画セッション

講演タイトル：21-水酸化酵素欠損症患者の移行期医療の問題点

～各科連携による生涯フォロー指針作成をめざして～

演者：水野 晴夫(国際医療福祉大学医学部 小児科学)

座長：山守 越子(JA 愛知厚生連海南病院 糖尿病・内分泌内科)

JES We Can Tokai 企画セッションでは毎回聴講者にアンケートを実施しており、希望する講演テーマにもご回答頂いております。その中で今回は遺伝性副腎疾患で最も頻度の高い21-水酸化酵素欠損症をテーマに取り上げました。小児内分泌をご専門とする水野晴夫先生に演者をお願いし、移行期から成人期にわたる身長発育、性機能維持のためにゴナドトロピン分泌を起こさせないようなステロイド補充量やステロイ



ド剤の使い分けのなどの管理方法について症例を交えてご講演いただきました。また患者さんの年齢や理解度に合わせた疾患理解と内服の重要性について教育の重要性と婦人科、泌尿器科との連携の重要性についてもお話しいただきました。成人内分泌内科としては本疾患になじみのない

医師が多かったこともあり、とても勉強になったという感想が聞かれ、当該疾患患者さんの担当医からの質問も多く、活発な討議が行われました。

今回は会長の有馬寛先生の御発案で JES We Can Tokai 企画セッションを指定講演(申請領域：小児科、2単位)にさせていただき、多くの参加者で大盛況のうちに終了しまし



た。また、前回の JES We Can Tokai 企画セッション後のアンケートで希望があった「託児所に預けることができる年齢より大きなお子さんの当企画講演中の会場同伴」についても会長のご許可で実現致しました。有馬会長にこの場をお借りして感謝申し上げます。昨年度より、当支部役員会に JES We Can 当支部代表(脇)がオブザーバーとして参加していますが、このような非会員の同伴参加について今後も引き続きご検討頂くことをお願いしました。

今後多くの方々にご意見やご協力を頂きながら、男女共同参画にふさわしい JES We Can Tokai 企画セッションを運営していきたいと思っております。

委員氏名：◎脇 昌子、赤羽貴美子、(新)井上直子、東村博子、中嶋祥子、村上雅子、山本眞由美、○山守越子

[近畿支部 第20回近畿支部学術集会]

開催日：2020年2月24日(祝)

会場：メルパルク京都

会長：北脇 城先生(京都府立医科大学大学院医学研究科 女性生涯医科学)

企画：JES We Can 企画講演

講演タイトル：「患者の視点に立脚した診療を目指す：patient-reported outcome の活用」

演者：島津 章先生(草津総合病院 先進医療センター)

座長：新谷 光世(大阪府済生会中津病院 糖尿病内分泌内科)

浅原 哲子(京都医療センター 内分泌高血圧研究部)

10月12日に予定されていた近畿支部学術集会では JES We Can 企画として京都大学大学院医学研究科放射線医学講座 教授 富樫かおり先生に「子宮の形態と機能を MRI でみる」という演題でお話頂く予定でしたが、台風のため中止となり、2月24日に開催となりました。日程変更に伴い、草津総合病院 先進医療センター 島津 章先生に急遽ご依頼させて頂き、「患者の視点に立脚した診療を目指す：patient reported outcome の活用」についてご講演頂きました。一人一人の患者さんの症状、困っていることなどを漏らさず聞き、それをまとめて日本人の下垂体機能低下症患者さんの QOL を適切に評価できるツールを開発されたこと、また採血や画像データのみならず QOL もきちんとみて治療してゆくことの重要性についてお話を頂きました。マスク着用で感染に配慮しながらも多数の先生方にご参加頂き、有意義な企画となりました。

委員氏名：◎加藤純子、浅原哲子、位田 忍、井上真由美、○新谷光世、高橋路子、藤本美香、三浦晶子、道上敏美

[中国支部 第20回中国支部学術集会]

開催日：2019年9月7日(土)

会場：岡山国際交流センター

会長：田中 弘之(岡山済生会総合病院 小児科)

企画：JES We Can(男女共同参画推進委員会)

第20回中国支部学術集会共同企画

パネルディスカッション「トランスジェンダーと内分泌」

ディスカッサント：

「性の多様性と性同一性障害(性別違和/性別不合)診療：概説、女性ホルモン療法、生殖医療」

中塚 幹也(岡山大学大学院 保健学研究科/岡山大学病院リプロダクションセンター)

「性別不合(トランスジェンダー)は精神疾患ではなくなったと WHO が宣言しました」

松本 洋輔(岡山大学病院 精神神経科/岡山大学病院ジェンダーセンター)

「トランスジェンダーに対する男性ホルモン療法」

佐古 智子(岡山大学病院 泌尿器科/岡山大学病院ジェンダーセンター)

座長：中塚 幹也(岡山大学大学院保健学研究科/岡山大学病院リプロダクションセンター)、三好 智子(岡山大学 医療教育統合開発センター)



今回は、本邦における GID : gender identity disorder の診療を牽引されてこられた先生方に、内分泌代謝診療に携わる医師が理解しておくべきトランスジェンダーについて、ご講演いただきました。中塚幹也先生には、トランスジェンダーの概念や診断・治療の流れなども踏まえ、産婦人科



の視点で GID と内分泌について、ご講演いただきました。次に松本洋輔先生に医師としての GID の方への対応ポイントなどをご講演いただき、最後に佐古智子先生にホルモン療法について泌尿器科の立場からご講演いただきました。LGBT の方は 8.9% の頻度であり、我々の診療の中で意識せずに診察している可能性が高いことを認識しました。また、内分泌治療の全身的な変化やその限界についても質問が挙がり、まだまだ未知数の分野であることが分かりました。プログラム立ち上げから、当日の会場準備まで、会長 田中弘之先生、運営事務局 長谷川高誠先生に多大なご協力を頂き、この場をお借りし深謝いたします。

委員氏名：◎栗岡裕子、○三好智子、山内美香

[四国支部 第 19 回四国支部学術集会]

開催日：2019 年 9 月 14 日(土)

会 場：高知会館

会 長：西岡 達矢先生(社会医療法人 仁生会 細木病院 副院長/糖尿病・内分泌内科部長)

企 画：女性医師セミナー

講演タイトル：妊娠と甲状腺疾患

演者：吉原 愛先生(伊藤病院 内科)

座長：井町 仁美(香川大学医学部 内分泌代謝・先端医療・臨床検査医学)

四国支部では JES We Can 活動として、毎年支部の先生方にご協力いただいて、外部から講師をお招きし講演いただいております。来年度も会長の先生にご協力いただけることになっています。

そして、今回は伊藤病院の吉原愛先生に、講演いただきました。内分泌内科を専門的に診療していると避けて通れない、「妊娠と甲状腺疾患」について、最新の文献、ガイドラインを交えてお話いただきました。わかりやすくご講演いただき、今後の診療に有意義な内容でした。もっと時間があれば出産後の管理や注意点なども是非伺いたいと思いました。

また高知で開催された第 29 回臨床内分泌代謝 Update(会長 岩崎泰正先生、高知大学 臨床医学部門 教授)における JES We Can 企画開催に、四国支部が協力いたしました。

委員氏名：◎◎井町仁美、吉田守美子

[九州支部 第19回九州支部学術集会]

開催日：2019年9月7日(土)

会場：宮崎市民プラザ

会長：中里 雅光教授(宮崎大学医学部内科学講座 神経呼吸内分泌代謝学分野)

企画：JES We Can 九州支部賞の受賞者の表彰&講演

座長：山本 幸代先生(産業医科大学 小児科学)

1) 園田 里美先生 産業医科大学医学部 第一生理学講座、第一内科学講座

「Expression of the genes encoding hypothalamic feeding-related neuropeptides in the streptozotocin induced diabetic rats with variable hyperglycemia and hyperphagia.」

2) 馬越 真希先生 九州大学病院 内分泌代謝・糖尿病内科(きらめきプロジェクト)

「Association between the risk of falls and osteoporotic fractures in patients with type 2 diabetes mellitus」

3) 松田 やよい先生 九州大学大学院医学研究院 病体制御内科学(第三内科)

「Eplerenone improves carotid intima-media thickness (IMT) in patients with primary aldosteronism. Endocrine」

2016年より女性医師による優秀論文を表彰する JES We Can 九州支部賞を設けており、今年度は選考の上、上記の3名の先生方が受賞されました。3名の先生方には、第19回日本内分泌学会九州支部学術集会で受賞講演をしていただきました。園田里美先生は臨床医として6年間勤務された中で、食欲についてもっと研究したいという思いから大学院に進学され、大学院2年目にしてすでに2つの論文を執筆されておられます。馬越真希先生と松田やよい先生にはひとつの共通点があり、それはお二人ともご自身の決断も含め、医局人事やご家庭の事情により、数年ごとに職場や環境が大きく変わる中、それぞれの場でご自身の仕事を形あるものに残し、確実にキャリアを積んでこられたことです。3名の先生方は、今回の受賞により、若手女性医師の良い目標になったのではと思います。

また第19回九州支部学術集会では、大会長である中里雅光先生のご意思により各セッションの座長の約半分を女性医師が担当し、さらに指定講演では、東京大学医学部 腎臓内分泌内科の槇田紀子先生をお招き頂き、女性医師の活躍の場が広がりつつあることを実感致しました。最後に、中里雅光先生および事務局の山口秀樹先生にこの場を借りて深く御礼申し上げます。

委員氏名：◎◎明比祐子、(新)馬越真希、佐藤 薫、(新)柴田洋孝、伊達 紫、花田礼子、増山律子、松田やよい、的場ゆか、三宅育代、山本幸代